

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.72

世界を目指せ!



10月、フランスのパリを中心に、伊勢鳥羽志摩の観光PRを伊勢市長・志摩市長とともにしてきました。日程は6日間ですが、時差の関係などもあり現地での活動は正味3日間だったため、スケジュールは隙間なく、ビッシリ。

メインの任務はレセプションで、初日は在仏日本大使館の大使公邸でのレセプション、2日目は写真家森田恭通氏の神宮を撮った写真展でのPRでした。昼間は政府系機関の日本政府観光局、日本貿易振興機構、自治体国際化協会や、なじみの深い民間企業のJAL、ミキモトの各パリ支店などを訪問し、観光協会の別動チームも旅行会社20数社へセールスをかけました。



大使公邸での私の講演の様子

地域がひとつになり、3市長がまとまって訪問することは、私たちの想像以上に相手方にインパクトがあったようで、こちらの本気度が伝わったように思います。何としてもインバウンド観光の世界でよく言われる東京・富士山・京都のゴールデンルートの一角に食い込まなければなりません。

鳥羽市は、市制始まって以来の規模での海外セールスを、観光事業者などと共に4年前に実現しました。内容は、フランスをターゲットとした海女文化の紹介と観光PRでした。そして今年3月、伊勢志摩地域が観光庁の「地方における高付加価値のインバウンド観光地づくり」のモデル地域として、全国11ヶ所のうちの1つに選定されました。この地域は伊勢志摩観光コンベンション機構という少し大きなくくりで、全国11ヶ所のうちの一つに選定されました。この地域は伊勢志摩観光コンベンション機構という少し大きなくくりで、海外においてをやーというこ

とで伊勢市、志摩市と一緒にフランスへ行くことになったわけです。

では、なぜフランスかという点、伊勢鳥羽志摩を訪れる外国人のうち、上位は中国、台湾、香港などの東南アジアの地域なのですが、欧米系ではフランスがかなり上位にきます。特にフランス人は歴史文化や伝統、アートに関心が高く、そういったコンテンツの有無で旅行先を決めるそうです。だからこそ今回は神宮、海女、真珠、食などを紹介してきたわけです。また、疑問点は何度でも問いかけてくるフランス人の気質は、リピーターとなる可能性も高そうです。何よりバカンスの取り方が大胆で、誤解されると困りますが、まさに「遊ぶために働く」といった働き方だということを感じました。

そのフランス人が認め、「いいね👍」と評価すると、他の国々がそれに倣うと言われています。鳥羽の魅力の世界へ！世界に向けて鳥羽をアピールしていきます！



日本貿易振興機構でのPRの様子

特別展

カツオー一本釣り漁船にエンジンがついた! — はじまりは伊勢・市川造船所 —



「海の博物館」

市立海の博物館 ☎ ③2 6006

伊勢市大湊は、古来より造船の町として知られていますが、明治39(1906)年～41(1908)年にかけて日本最初の動力付き漁船「富士丸」や三重県初の動力付き漁船「南島丸」が建造されたことはあまり知られていません。今回の特別展では、江戸時代、元禄年間(1688～1703)の創始で、昭和53年ごろまで大湊において数多くの船を造り続けてきた旧市川造船所が残したカツオー一本釣り漁船関係の図面や写真資料を展示紹介します。日本各地のカツオ漁などに大きな影響を与えた「富士丸」、県内のカツオ漁船の先駆けであった「南島丸」、その後市川造船所で建造されたカツオ漁船に関する資料を展示することで、漁船の動力化の始まりと発達について理解を深めてもらえる特別展です。



鳥羽港に回航された静岡県水産試験場船 富士丸

開催期間

12月9日(土)～令和6年4月7日(日)

期間中の休館日

12月26日(火)～30日(土)

開催会場

鳥羽市浦村町大吉 1731-68

料金

海の博物館の入館料金でご覧いただけます。大人 800円、小人 400円